

- 8:00 起床。チャントパンヤホテル。朝食。メニューから注文方式。昨夜の痛飲でいささか宿酔いぎみ。食欲なし。
- 9:00 ホテルを出て、同行者のバイクの後に乗って、Pさん宅へ向かう。
途中のガソリンスタンドで給油。リッター日本円換算で70円～80円。
新しいGSは、日本と同じ、飲み物があり、トイレがあり、休憩できる。
舗装道路を走ること約40分。
- 10:00 Pさん宅に到着。
父母、兄弟、子供が出迎えてくれる。
中華正月に使う菓子、ビアラオ、焼き魚（市民のマーケットでよく売られているセラピアの塩味の焼き魚・この村の食料品を売る店で魚を扱っているようだ）、モチ米の蒸したもの、ソム（生ハムのような酸っぱい豚の加工品、ビールによく合う）でもてなし。食べるよう勧められるも宿酔いにて食欲なし。
ビエンチャン郊外とも言える静かな集落の中。瀟洒な建物。ラオスでは水準以上の住居。小学校（本日は土曜日で休み）の横に住居がある。
近くに川があり、舟遊びが住民のリクレーションになっている模様。ビールを持ち込み、魚釣りなどをして遊ぶのが楽しみとのこと。日本に留学中の娘が日本語がうまくなるまでがんばらなきゃ。
父は軍に勤めている。本日は土曜日で休日とのこと。
子供たちが多く、誰彼の子供の区別なく、庭先で遊んでいる。家の中にも入っている。
- 10:45 Pさん宅においとまする。
市内へ帰る途中、カイツーン博物館に立ち寄るが、12時を少し過ぎており、Closed。
昼休みに入っている。2時から再開。
ひとまず、市内へ入り。タラートサオ（ラオス最大のショッピングセンター）へ寄る。
初日に見た壁掛けがここにあるとので探すが、見つからず。生鮮食料品以外のあらゆる商品が扱われている。食堂もある。市民や外国人ツーリストで賑わっている。
目的とするものが無く、市内の元の店に戻り購入。値下げ交渉にも拘わらず値切れず約20ドルで手を打つ。
コンビニ風の新しいタイプの店に入り、お土産を買う。店主はアメリカ人、このような新しい起業は殆ど外国人の手によること多い。ラオスコffeeをオーガニックと言ってしきりに推奨していた。来週には日本に行って、スーパーマーケットと取引の交渉をすとか。
- 14:00 カイツーン博物館に入館。
入館者誰もなし。守衛、切符のもぎり、館内の管理者などすべて手持無沙汰。館内はクーラーも無く、扇風機も回っていない。この暑さには閉口。落ち着いて見られない。
館内は写真厳禁。カバンを預けて館内を見ることになる。
王国時代のものも展示されており、古代から今日までの歴史が判るようになっている。が、中心はカイツーン元大統領の偉業を称える展示が中心。元大統領の生家の産声を上げた部屋が再現して展示してあるなど、個人崇拜の色合いが強いのが気になる。
ラオス共産党創立25周年を記念して2000年の建国記念日にリニューアルオープンしたと言う。
- 16:15 Tさんと例の男性(Kさん)が里子として育てている子供も乗せて、ホンダアコードでホテルに迎えに来てくれる。国境の町まで送るためである。
出国手続きをして国境を超え、バスでタイ・ラオス友好橋を渡り、入国審査の後、タイへ入国。ツクツクでタイ人と同乗して夜行列車始発のHONKHAI駅へ。
- 18:00 HONG KHAI 駅で HONG KHAI 発 BANGKOK 行列車に乗り込む。

約20車両を連結している。車両のクラス分けが明確になっている。我々のクーラー付き2名コンパートメント車両は機関車のすぐ後ろ、このクラスの車両は1両のみ。続いてファンの3段ベッド。クーラーの普通車、ファンの普通車、の順である。食堂車も連結。

食事はコンパートメントまで運んでくれる。フライドライス、コーヒー、ビールで1000程度。日本の駅弁と比較してもそれほど安価ではない。

定刻、18:20を約30分遅れで出発。

AYUTTHAYAは明朝、4時過ぎ到着予定。

夜9時頃、ベッドをセットに来る。眠りに入るが寝られない。禁煙だが、コンパートメントを出て、車両の乗降ドアの近くで喫えとのこと。



【カイソーン博物館】



【出国手続き風景】



【タイ入国審査を待つ】



【HONG KHAI Station】



